

各 位

上場会社名 株式会社山田債権回収管理総合事務所
 代表者 代表取締役社長 山田 晃久
 (コード番号 4351)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 湯沢 邦彦
 (TEL 045-325-3911)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年2月15日付「平成21年12月期決算短信」及び平成22年5月10日付「平成22年12月期第1四半期決算短信」において公表しております業績予想について、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,166	101	106	74	17.37
今回発表予想(B)	1,190	△73	△58	△104	△24.46
増減額(B-A)	24	△174	△164	△178	
増減率(%)	2.1	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年12月期第2四半期)	740	△533	△512	△507	△119.17

平成22年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,300	170	170	100	23.47
今回発表予想(B)	2,450	30	68	△85	△19.95
増減額(B-A)	150	△140	△102	△185	
増減率(%)	6.5	△82.4	△60.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	2,086	△466	△470	△552	△129.65

平成22年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,043	54	59	35	8.22
今回発表予想(B)	1,114	△64	△39	△86	△20.20
増減額(B-A)	71	△118	△98	△121	
増減率(%)	6.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年12月期第2四半期)	710	△501	△461	△460	△108.15

平成22年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,073	91	101	60	14.08
今回発表予想(B)	2,299	35	83	△70	△16.43
増減額(B-A)	226	△56	△18	△130	
増減率(%)	10.9	△61.5	△17.8	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	1,993	△431	△370	△569	△133.71

修正の理由

連結における業績予想の修正の理由は以下のとおりです。

連結の売上高につきましては、一昨年の米国に端を発する世界同時不況の影響による景気低迷は、長期化の様相を呈しており、まだまだ当社を取り巻く環境は厳しいものとなっております。

不良債権ビジネスの市場は、金融庁の貸出条件緩和債権の適用基準見直しや中小企業円滑化法の施行が金融機関の債権売却の抑止力として働きバルクセールが減少し、同時に、経済の低迷を反映して回収遅延が懸念され、業況・収益の両面にとって厳しい環境下におかれております。このため業績への影響について先の読みづらいつ傾向が続くと考えております。

サービス事業においては、上記市場等の環境を反映して、バルク債権・再生案件について大口回収が無く、前年実績を50百万円下回りました。一方、バックアップサービスの回収受託は364百万円と前年実績に比べ260百万円増加しました。

派遣事業は、平成21年7月1日より、登記サービス業務にかかる出向業務及び書類作成業務を「特定労働者派遣事業」に切り替えました。このため前年同期との比較はできませんが、当期実績は計画を上回り444百万円となりました。測量事業は、大型案件の受注が無く、前年実績を27百万円下回りました。エスクロー信託業務は、62百万円と、前年実績を38百万円上回りました。

不動産仲介事業は、大型案件を獲得できず18百万円の実績に止まりました。

販売費・一般管理費におけるバルク債権に対する貸倒引当金繰入額は157百万円と前年実績に比べ340百万円減少したものの、回収が予定したほど捗らず計画に対しては102百万円の超過となりました。さらに上記、測量・不動産仲介事業(その他事業)の売上実績が低調に推移したため、営業利益につきましては計画を達成できませんでした。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,190百万円(前年比450百万円増)、営業利益△73百万円(前年△533百万円)、経常利益△58百万円(前年△512百万円)、四半期純利益△104百万円(前年△507百万円)と予想しております。

当社グループが直面している不動産取引市場の厳しさは、まだまだ改善・回復の兆しが見えておりませんが、第3・4四半期におきましては、バックアップサービスの回収受託が引続き好調を維持し、測量事業において受注した大型案件により売上高は前回予想を上回る見込みであります。一方、バルク債権に対する貸倒引当金繰入額は、当初計画に対し増額を見込むものの回収努力により120百万円を見込んでおります。

したがって、平成22年2月15日付「平成21年12月期決算短信」及び平成22年5月10日付「平成22年12月期第1四半期決算短信」において発表の通期の連結業績予想に関しましては、売上高2,450百万円、営業利益30百万円、経常利益68百万円、当期純利益△85百万円に修正いたします。

また、個別の業績予想につきましても、同様の理由により記載のように第2四半期累計期間および通期の予想数値を修正いたします。

以上